るもの。すなわち、機関車、炭水車、車輪、線路を描いていること、線路と車輪、車輪と車体が付いていて、連結があること。車輪は機関車が　4～7個。炭水車が2～4個。客車は4個と6個であるのが正しい」とした。

〈調査成績〉

幼児と保育者の類似点＝機関車、車輪を描いたもの、車輪と車体が付いているもの、炭水車を描かないものが略々同じ位である。描き方はフロンタリティの法則にのっとっているものが多い。幼児と保育者の相異点＝線路を描いたもの…幼児〈保育者。連結があるもの、線路と車輪がついているもの…幼児〈保育者、保育者にはないが幼児の絵の中で透視的な絵や客車に煙突を付けたものがある。

〈考　察〉

小物体を全体的、直観的に掴むのは幼児の観察の特徴であるが全体と部分との関係を有機的、綜合的に考える能力に欠けているようである。この際、興味を持続させつつ事物を細かく観察させると既得観念を徐々に修正し事物を正しく把握する態度、合理的に判断する態度が養成されるのではないだろうか。ベルグソンが直観教育の重要性を述べているように事物の大小にかかわらず直観的に正しく把握するように観察教育を施したいと思う。本調査の結果、現在の母姉は過去において、事物を直観的に正しく把握する教育がなされなかったのではないかと思う。この弊を次代を背負って立つ幼少年には残したくないと思う。

＊　＊　＊

幼児の遊具に関する一考察

―遊具の色彩について―

愛育研究所
竹田俊雄

一、研究の目的

幼児の遊具に施されている色彩は幼児の色彩好悪に応じるものであるか。幼児はどのような色彩の遊具を好むかを条件的に明らかにしようとする。

二、研究の方法

実験材料として、金属玩具の自動車と金属製円板各十五個を標準色（Ostwald 色相一、三、五、七、九、一一、一三、一五、一七、一九、二一、二三、白、灰、黒）で塗装し、これを一対比較法により、各一〇五組につき、「好きな方」を選択させる。被験者は東京山手のA幼稚園児（六才児・五才児計五九名）〈実験は昭和三十三年三月に実施された。

三、実験結果

実験結果を綜合し、幼児のもっとも好む色彩の順に排列すれば、表の通りである。

四、結論

一、刺戟による差は比較的少ないが、自動車や円板（無意味形体として提示したが、

順位	自動車				円板			
総合	男年長	男年少	女年長	女年少	男年長	男年少	女年長	女年少
1	W 白	W 白	7 赤	7 赤	B 黒	W 白	7 赤	7 赤
2	23 黄緑	B 黒	23 黄緑	5 橙	23 黄緑	15緑み青	5 橙	5 橙
3	B 黒	1 黄	5 橙	3赤み黄	W 白	B 黒	B 黒	1 黄
4	13紫み青	13紫み青	B 黒	13紫み青	13紫み青	13紫み青	23 黄緑	3赤み黄
5	G 灰	23 黄緑	W 白	1 黄	21 緑	G 灰	3赤み黄	11 紫
6	21 緑	15緑み青	3赤み黄	9赤み紫	G 灰	19青み緑	21 緑	13 紫み青
7	19青み緑	3赤み黄	1 黄	19青み緑	19青み緑	23 黄緑	1 黄	17青み緑
8	15緑み青	21 緑	13紫み青	11 紫	15緑み青	1 黄	13紫み青	19青み緑
9	5 橙	G 灰	21 緑	23 黄緑	5 橙	21 緑	W 白	23 黄緑
10	7 赤	7 赤	19青み緑	15緑み青	7 赤	3赤み黄	19青み緑	21 緑
11	3赤み黄	19青み緑	G 灰	17 青緑	11 紫	5 橙	9赤み紫	9赤み紫
12	17 青緑	5 橙	9赤み紫	21 緑	3赤み黄	11 紫	11 紫	15緑み青
13	11 紫	11 紫	11 紫	W 白	17 青緑	7 赤	G 灰	B 黒
14	1 黄	17 青緑	17 青緑	B 黒	1 黄	17 青緑	17 青緑	W 白
15	9赤み紫	9赤み紫	9緑み青	G 灰	9赤み紫	9赤み紫	15緑み青	G 灰

（順位以外の数字は色相番号、相応する日本名を付記する）

「皿」としての意味づけが見られた。）の現実的規定が見られる。

二、年長、年少の差は比較的少ない。

三、性別の差は大きい。

四、色紙その他の刺戟、環境を異にする幼児、一そう年少児について調査を進める要がある。

幼稚園においての遊びに関する研究

愛育研究所
植松治子　渡辺益江　吉武郁子
中村徳子　小島玲子　住吉玲子
神郡敏子

○自由遊びの一形態（期間昭和三十二年四月より三十三年三月までの一か年間）

一、研究方法及び当面の目的。

日常子どもと生活を共にしている保育者をその観察者とし、平常保育における自由遊びの時間で最もよく遊ばれている遊びを観察し、それを記録の対象とした。環境により、子どもたちの遊びも多少の差があることを予想し、全国的にわたって幾つかの、幼稚園からの資料を望んだのであるが、この研究をするにあたっての時間あるいは、研究費、その他の事情のため、今回は、東京都の中の